

山行報告書

| | | | |
|--|--|-----|-------------|
| 通算山行NO | NO・115 S | 報告者 | 八木 淳二 |
| 年月日 | 1997年11月22日 (土) | | |
| 山行名 | 冬山訓練 | | |
| 山名 | 八ヶ岳阿弥陀南稜～阿弥陀岳(2805m)～赤岳(2899m) | | |
| この山のセールスポイント | 美しい霧氷の静かなコース | | |
| コース及タイム | 11月22日 駐車場発 4:30発 → 大河原橋取付4:50着 → 立場山 6:20着30発 → 南稜阿弥陀岳山頂10:00着20発 → 赤岳山頂 11:50着 12:10発 → 阿弥陀岳山頂13:25着 30発 御小屋尾根下降 → 駐車場着 15:40着 | | |
| 標高差 | △ 林道終点 ~ 赤岳 ≒ 1250m ▽ 赤岳 ~ 阿弥陀岳 ≒ 2899 | 体力度 | 1 2 3 4 ⑤ 6 |
| 走行距離 | ~ Km | 技術度 | 1 2 3 4 ⑤ 6 |
| CL | 後藤隆徳 50 少層でツマナイ 記録 八木淳二 | 展望度 | 1 2 3 4 5 ⑥ |
| SL | 加藤秀子 48 トヨ氷瀑は初めの経験、サイコー 高岡八千代 60 トヨ氷にアセシガ利ナキ苦労 | | |
| <p>久しぶりに会山行に参加できることになった。それも一度行ってみたいと思っていた阿弥陀岳南稜である。</p> <p>さてさて、土曜日は、久しぶりにメンバーとの楽しいキャンプである。豪華すぎ焼き鍋と海の幸と、美味しい酒でしこたま気持ち良く酔う。外は雨が降りだしたがテントの中は笑い声が絶えない。ただ外が気になるなあー。明日てんきになあれーっ</p> <p>午前3時起床。どうやら前日の夜半から降りはじめた雨も上がり、念願のアタック日和である。御小屋尾根を登るグループとに別れ出発。</p> <p>林道終点近くに車を置き取りつき登山口取りつきを捜す。しかし、取付き口が分からず苦労するが、何とか取付き口が判明し一路、立場山をめざして急坂を登る。中々の急坂が続く、登っている途中の林にはいたる所に立入禁止の立札が、目に付く。「何かあやしい」「そうだこの辺は赤松林だからマツタケがあるのだ」「ウーン今度は、秋に来て見ようか等、よからぬ思いが頭を駆け巡る」無断立入罰金10万円と書いてあった。ただど国産マツタケを一度焼いて食べてみたいと思う八木でした。</p> <p>さて、立場山山頂に差し掛かると前泊したのかテントが一張りあった。早朝の訪問者に驚いたのかテントの明かりが点いた。稜線にでる前に完全装備を整え登攀に備える。稜線に出ると目に飛び込んだのは鮮やかな霧氷だった。</p> <p>冬山の名物である。しばしうっとり見つめていた。阿弥陀岳南稜の核心部はP3の桶状の氷壁である。フィックスロープが張ってあるものの氷化しており登り難いがトップを行くリーダーはスピーディーに登っていく。間もなく「登っていいぞーっ」のアで加藤氏が続く。最後は、私が登るがホールドを探すのに手間取る。午前10時阿弥陀岳山頂に予定どおり到着、御小屋尾根隊も、予定時間より若干遅れて登頂して来た。まあ高岡さんのパワーには驚かされる。普段のトレーニングを真剣にやっているのだろう。全員で記念写真を取り赤岳山頂へ向かうが、ガスが掛かっており展望は望めそうにない。今度は、どこのバリエーションルートへ行くのだろう。期待でいっぱいである。</p> | | | |
| その他の記述 | <p>1. 凍っている赤岳をアセシ、ピッケルナシの運搬準備が多いのはあつらうた。</p> <p>2. 御小屋尾根隊を小くめまじりた歩行速度が違い。</p> <p>3. 美術館のトイレはフローズン。立場山にテント一張り、赤岳の方で。後継者に女性がいる。(この頃ごと)</p> | | |

一口メモ＝八ヶ岳は、昔、富士山より高かったそう。それが噴火で頂がふもとび、八つに分かれた。異説はあるが、甲州では横岳、碓氷岳、阿弥陀岳、権現岳、峰ノ松目、織笠山、西岳、それに主峰・赤岳を指すという。(こ)